

神鋼ノース

「防水システム」開発

浸水、漏水防ぎ長寿命化

神鋼製鋼所の100%子会社で、アルミ精製加工品を手がける神鋼ノース(社長・遠山茂幸氏)は21日、アルミハニカムパネル製庇(ひさし)で長期間のメンテナンスフリーを実現する「防水システム」を業界で初めて開発し、1月から販売を

開始すると発表した。築分野の売り上げを10%増し、アルミ精製加工品への浸水を拡大する計画。

今回開発したのは「防水ボルト」、「防水ゴム」を採用した。温度変化によるパネルの目地の伸縮にも対応する形状となっており、目地の幅の変化による接着のはがれなどを漏水を防ぐ。さらに防水ゴ

と止水フランジを一体成型した特殊ボルトとゴムパッキンによる乾式工法で確実に防水を可能にした。また、ボルトは工場で取付けるため、輸送・施工時などのパネル内部への浸水も防止できる。

パネル間の目地には紫外線にも高耐久のシリコーンゴム製の防水ゴムを採用した。温度変化によるパネルの目地の伸縮にも対応する形状となっており、目地の幅の変化による接着のはがれなどを漏水を防ぐ。さらに防水ゴ

ムに異常が出てもその下で水を受ける二次排水機構により確実に雨漏りを防止するシステム。二次排水機構は意匠性や機能などにより3種類のタイプから選択できる。

アルミハニカムパネル製庇は、体積の95%以上が空気層という軽さでありながら優れた強度・剛性・平滑性を持たせることが可能で、近年では需要も拡大している。

神鋼ノース

ハニカムパネルひさし

防水化、保守不要に

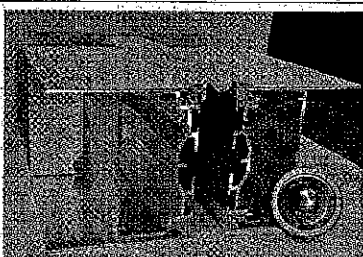
神鋼ノース(本社・茨城県かすみがら市、遠山茂幸社長)はアルミハニカムパネル製ひさしをメンテナンスフリーにする「防水システム」を開発、すべてのハニカムパネル製ひさしを防水化する。現在同製品の販売実績は年間2万平方メートルで約12億円だが、2年後には15億円に拡大する計画。

同社は1993年に新鮮線床材用のアルミハニカムパネルを開発、その後2000年にひさしなどの建材製品に進出した。アルミハニカムパネルは体積の95%以上が空気層で

軽量が、強度・剛性を平滑性に優れており、車寄せなど建築物開口部のひさしに多く採用されている。

従来のシリコン材による防水施工より高くなるが、品質異常などのクレーム対応がなくなることを考慮すれば、トータルコスト的にはむしろ向上として、販売価格は従来製品から変更しない予定。

「防水3点セット」のうち防水ボルトは、従来のゴムパッキン固定部からの浸水をボルト



への浸水を防止する。防水ゴムはシリコーン製を採用し、目地の伸縮にも対応する形状となっており、目地の幅の変化による接着のはがれなどを漏水を防ぐ。さらに防水ゴムに異常があった場合は、番目の二次排水機構が雨の浸入を防ぐ仕組み。この3点による防水工法で可能とし、工場出荷時からパネル内部

への浸水を防止する。防水ゴムはシリコーン製を採用し、目地の伸縮にも対応する形状となっており、目地の幅の変化による接着のはがれなどを漏水を防ぐ。さらに防水ゴムに異常があった場合は、番目の二次排水機構が雨の浸入を防ぐ仕組み。この3点による防水工法で可能とし、工場出荷時からパネル内部